

生きがい

区分	年度末目標値	実績値(12月末)		前年12月末	
		男性	女性	男性	女性
会員数(人)	1,180	752	274	1,060	779
					281
契約金額(千円)	480,000	314,431		365,821	

設立四十周年記念式典を開催

設立四十周年の節目を迎えた公益社団法人日立市シルバー人材センターの記念式典が昨年十月九日、多賀市民会館で開催されました。新型コロナウイルスの感染防止のため、招待者、関係者の出席を制限し、催し物を取りやめ、式典だけの開催となりました。

昭和五十年代、高齢化が急激に進む一方、今よりずっと若くして定年を迎えたシルバー世代の社会参加と生きがいづくりを促す目的で、日立市シルバー人材センターは県内市町村の先駆けとして、昭和五十五年十月に設立されました。設立初年度の会員数は三百五十五人。以来、職域開拓を進め、独自事業を立ち上げ、現在は千人を超えるまでに会員数を伸ばし、シルバー世代の地域参加の窓口として、四十年間の歴史を刻んできました。

式典の冒頭、今橋徹也理事長は設立時の苦労や発展の歴史に触れ、「高齢者活躍の場の重要性を推測し、組織として立ち上げた方々の先見の明、努力に敬意を表したい」と述べ、官民の協力と会員の長年の努力に感謝の言葉を添えました。

その上で、今橋理事長は「新型コロナウイルスの影響で生活形態や基本的な日常パターンを変えての対応が求められている」と課題を挙げ、社会変化、ニーズに対応した仕事の開拓に取り組む決意を述べ、「これからも多くの会員の出番と居場所の拡充に努めたい」と力強い言葉で式辞を結びました。

このあと、来賓の小川春樹日立市長、伊藤健也市議会副議長、綿貫剛県シルバー人材センター連合会会長から祝辞が贈られました。

最後に、会員登録二十五年の会員七人を代表して岡部美智子さんに、会員登録二十年の会員四十五人を代表して池田林治さんに、今橋理事長から表彰状と記念品が贈られました。



壇上で式辞を述べる今橋理事長



出席者を大幅に削減して開催された記念式典



出席者の検温、消毒、全員マスク姿での対応となった受付会場

目次

- 設立40周年記念式典を開催 1
- 理事長あいさつ、安全祈願 2
- 市長あいさつ、感謝のお手紙をいただきました ... 3
- 市長と市議会議長に支援要望書を提出 4
- <年男・年女>今年の抱負 5
- シリーズ
- 「しるばー奮闘記・まちが活躍の舞台です」... 6~7
- 県シ連との共催イベント
- 新規会員向けセミナーを開催 8

公益社団法人 日立市シルバー人材センター

〒317-0076 茨城県日立市会瀬町4丁目9番13号(福祉プラザ内)
 TEL 0294-34-6018 FAX 0294-36-4510

メール hitachi@sjc.ne.jp

日立市シルバー



理事長

今橋 徹也

明けましておめでとうございます。
 会員の皆様方には、ご家族ともども健やかに新春を迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。

また、旧年中は日立市シルバー人材センターの運営、各種活動におきまして、ご理解とご協力を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

さて、令和二年は、誰も経験したことのないコロナウイルスの感染拡大により、日常生活はもとより、仕事の休止や減少、互助会や地域班の活動停止など、多くの場面において想定外の状況が続きました。

一年前の「生きがい」には「今年は、東京オリンピックの話で持ち切りになると思います」という挨拶文を載せたとおり、開催延期は思ってもいないことでした。

そのような変化が続く中、当センターは設立四十周年という、みんなで祝う記念の年を迎えたところです。

しかし、その四十周年を祝う事業は、コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、最小限の

人数による式典のみとなってしまう、会員が顔を合わせての楽しい時間を持てなかったのは、大変残念なことと思っております。
 さて、年が改まりまして令和三年。丑年の話題を。

牛は十二支の中で最も動きが遅いことから、丑年は「先を急がず一歩一歩着実に物事を進める」、「目指す結果につながる道の基礎を築く」ことなどに適した年と言われております。

年の始まりから二度目の緊急事態宣言が出されるなど、状況悪化が収まりませんが、会員の皆様には衛生環境にご留意いただき、コロナに負けず、生きがいを感じられる活動をゆつくりと丁寧に、そして何より安全第一を優先に、元気な気持ちと体で過ごしていただければと願っております。

厳しい環境が続いておりますことから、例年にも増して会員の皆様、ご家族の皆様のご多幸とご健勝をお祈りいたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

本年は、設立四十一周年の年。
 気持ち新たに、次の十年へのスタートが切れますよう、ご支援、ご協力の程、よろしく願っています。



令和三年

安全祈願祭を開催

令和三年一月十八日(月)に、艦神社において安全祈願祭を執り行いました。

なお、本年は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、今橋理事長及び小澤・中澤両副理事長の三人での祈願のみとなりました。



今年一年の安全を祈願
 左から中澤副理事長、今橋理事長、小澤副理事長



日立市長

小川 春樹

明けましておめでとうございます。令和三年の新春を皆様とともに迎えることができましたことを、心からお喜び申し上げます。

また、日頃から、市政各般にわたり、温かく力強いご支援とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます

昨年は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、国全体が苦しい状況に立ち向かった一年でした。本市では、市民の皆様の安全と安心を最優先に、感染症対策の徹底と地域経済の活性化を図るための取組を積極的に進めてまいりました。

また、各種事業の推進におきましては、大甕駅周辺地区整備の完了や、南部消防署の供用開始、かみね動物園の新たなニホンザル舎の整備など、都市力の向上やまちの賑わいづくりのための重要事業を着実に推進することができました。

高齢者福祉の施策におきましては、一人暮らし高齢者や認知症高齢者などを切れ目なく支援するための体制づくり「地域包括ケアシ

ステム」を推進するとともに、高齢者福祉を進めるうえでの指針となる「日立市高齢者保健福祉計画」の改定や、特別養護老人ホーム「日立市萬春園」の再整備を進めるなど、本格的な長寿社会の到来を見据え、市民の誰もが、住み慣れた地域で、いつまでも安心して健康やかに生活することができると環境づくりを進めているところであります。

日立市シルバー人材センターにおかれましては、昨年、設立四十周年という節目の年を迎えられました。昭和から平成、そして令和へと至る長きにわたり、高齢者の就業機会の確保や働くことで得られる生きがいの充実など、地域福祉の向上に多大なご貢献をいただいておりますことに改めまして、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

本市といたしましては、引き続き、高齢者の皆様が生きがいをもって、明るく生き生きと輝き続けられるまちづくりに、丁寧かつ力強く取り組んでまいりますので、本市の地域福祉の更なる充実と向上に、より一層のお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして、健康で幸多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。



感謝のお手紙をいただきました

日立市学校施設課から受託しているグラウンド等整備の作業に関して平沢中学校の生徒から感謝のお手紙をいただきました。

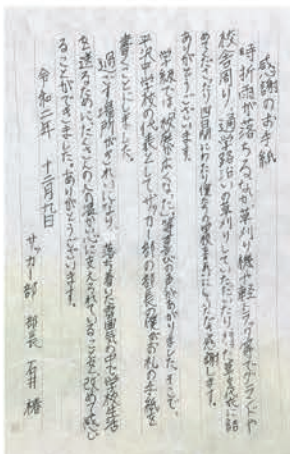
内容をご紹介します。
時折雨が落ちるなか、草刈り機や軽トラック等でグラウンドや校舎周り、通路路沿いの草刈りしていただいたり、刈った草を袋に詰めくださったり、四日間にもわたり僕たちの学校をきれいにしていただき感謝します。ありがとうございます。

学級では、「校庭が広くなった。」等喜びの声があがりました。そこで、平沢中学校の代表として、サッカー部の部長の僕がお礼の手紙を書くことにしました。

過ごす場所がきれいになり、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送るために、たくさんの方の温かい心に支えられていることを、改めて感じる事ができました。ありがとうございます。

令和二年十二月九日

サッカー部 部長 石井 椿



市長と市議会議長に

支援要望書を提出

令和二年度十一月五日に理事長ほか役員が、小川市長と伊藤副議長に面会して、シルバー人材センターの取り組みを説明するとともに、支援拡充の要望書を提出しました。

人口減少、少子高齢化が進み、人生百年時代を迎え、誰もが生涯現役で活躍できる社会の実現が求められています。日常生活に密着した就業機会を提供することで、高齢者の社会参加と生きがいの充実、健康の維持増進、地域社会の活性化、医療費や介護費用の削減などに貢献しています。

令和元年十二月に政府がまとめた「全世代型社会保障検討会議中間報告」において、元気で意欲あふれる高齢者が、能力を発揮し、活躍できる社会を創る必要性が指摘されており、シルバー人材センターの果たす役割の重要性と地域社会の期待は大きなものになっています。

こうした国や地方自治体の施策、地域社会の期待にこたえ、平成三十年代から



小川市長、伊藤副議長に要望書を提出する今橋理事長

令和六年度までの七年間を期間とする「第二次会員百万人達成計画」を踏まえ、会員の拡大、特に女性会員の拡大に取り組んでいます。また、「自主・自立・共働・共助」という理念のもと、安全就業を確保し、適正就業ガイドラインを遵守し、

- ①介護予防・日常生活支援統合事業など要支援者に対する支援事業
 - ②放課後児童クラブの担い手など子育て中の現役世代や子供たちへの支援事業
 - ③人手不足や働き方改革に取り組む地元企業に向けたシルバー派遣等の事業
 - ④空き家管理、遊休地を活用した農園事業など地域の課題解決に資する事業
- 等を重点に取り組み、地域社会の発展と就業意欲のある高齢者の受け皿として役割を果たす決意です。

令和三年度のシルバー人材センター事業の推進のために必要なセンターに対する補助金などの確保を要望し、特にセンターに対する地方自治体からの事業発注の確保と安定的な事業運営が可能となる措置を要望いたしました。

シルバー人材センター事業の取り組みと重要性に対して理解を示していただきました。

県内一斉に シルバー事業PR活動

昨年十月一日午前九時三十分よりJR日立駅前、常陸多賀駅前でシルバー人材センターを、広く知っていただくためチラシおよびウェットティッシュなどを配布し広報活動を行いました。



日立駅前でウェットティッシュを配布する役員

今年の抱負
男・女
 今年の方
 抱負

今年の方「丑」年生まれの会員は八十四歳の方が十七人おられます。新年にあたり十人の方から抱負や目標のご寄稿をいただきました。



小田部 正義

本庁二班

年男です。あと何回かな。今コロナウイルス感染拡大中。家の中にくすぶってばかりでは、身体に毒。趣味娯楽のゴルフクラブを庭で振り、家の中でカラオケレッスンし、元気に日々を送っています。



安 正善

本庁四班

生かされ生きて七回目の年男。今年你的生活信条は「少弧多朋」と決めました。孤立を避け仲間と共生したいとの思いからです。シルバー同好会にもより積極的に参加し、人生をエンジョイしたいです。



沢田 勝利

中部一班

健康づくりのため二年前からグラウンドゴルフを始めました。毎回思うことは女性方の上手なものには驚いています。現在は就労していませんが、今後ともシルバー人材センターとの付き合いよろしく願っています。



高野橋 實

中部三班

入会しての仕事が機器の点検でした。公共施設、町の工場など、社会勉強をさせてもらいました。コロナ禍の今、健康第一にし、世の中がどう変わっていくかみていきたい。



草野 学

中部四班

永年、地域のボランティア団体に加盟して楽しんできました。これからも焦らず、怠らず、文字どおり牛歩のごとく、一歩一歩大地を踏みしめて悔いのない人生を送りたいと思っています。



塚本 政也

中部四班

私は二年前に腎臓摘出し、二カ月で復帰できたのも、常日頃から体を動かし規則正しい生活を送ってきたからだと思えます。今後は仲間を支えられながら働いていきたいと思っています。



渡辺 康吉

中部四班

二十年余り植木班で働いております。各家庭を回り喜ばれる仕事を目標に、そして皆様に支えられ大過なく今日までできました。今年も安全に気を付けて健康で働けることです。



鈴木 ミチ子

中部四班

年々身体の衰えを感じるこの頃です。センターに入会して二十二年、除草班で頑張っております。各家庭を回り喜ばれる仕事を目標に、そして皆さまに支えられ大過なく今日までできました。



鴨志田 強

中部五班

平成十一年入会、草刈一途に二十二年継続し、喜べないが班内で最古参。近頃は寄る年波に勝てず、仲間の多大な助力を拝受しています。コロナ禍が拡散する折、感染からの逃避先として草刈を続けたい。



苅部 正雄

中部五班

残り少ない人生です。日々健康で平穩に暮らせることを願っております。また元気で体力が続く限りシルバーの仕事の続けたいと思っています。

シリーズ「しるばー奮闘記・まちが活躍の舞台です」

当センターは自治体、企業、一般家庭などから依頼される仕事をはじめ、独自に立ち上げた事業や、人手不足分野を中心とした派遣業務など、仕事の種類は多岐にわたる。これまでの豊富な人生経験をフルに生かし、仕事に励む会員たちの活躍ぶりをシリーズで紹介する。(シリーズ四回目)

「大みか駅前自転車駐車場管理」始まる

令和元年、一日平均九千六百人が乗車するJR大みか駅がリニューアル、周辺施設も次々と整備された。東口の自転車置き場は、終日利用可能な有料自転車駐車場に生まれ変わり、昨年四月一日オープンした。

当センターはその指定管理者に選定され、シルバー会員四人が従事。正月三が日を除く毎日、利用者が多い朝夕に駐車場管理棟に一人駐在、また二人一組で放置自転車対策に駅周辺パトロールを週二回行っている。

昨年十一月中旬午後四時過ぎ、管理棟を訪問。その日担当の梶山勇さん(七一)は夕方からの勤務に就いていた。会員登録歴が一番浅い梶山さんにとって初めての仕事。しかし今ではすっかり慣れた様子、常に監視モニターへ顔を向けたまま、オープン当手を振り返ってくれた。「実は、研修を受けたけどパソコン操作は不慣れ。四月は定期利用申込者が多く、

窓口其三、四人が並んだ時は緊張し、ミスしないかと不安になったことを思い出すよ」。

突然、梶山さんは席を立ち、外へ飛び出した。入口ゲート・モニターの前で迷っている女性の姿が映っている。初めての利用らしい。梶山さんは現金での利用方法をやさしく説明。女性が「ありがとう」と言って駐輪券をとり入場すると、近くの空いているラックを勧め、自転車を載せ終わるまで見守った。

「この前、強い風が吹いたときはここに落ち葉がたまっちゃって大変だった」と言いながら、U字溝の中のごみをトングで拾っていた。駅から上り電車到着のアナウンスが流れてまもなく談笑しながら高校生が現れた。二人は慣れた手順で定期ICカードを使い、あつと言う間に自転車を押して出口ゲートを出て行った。夜八時、梶山さんの退勤時間だ。残業で頑張っている人、夜勤で働いている人達の自転車がまだ二十台くらい場内に残っている。

その四日後午後三時、西口(学園口)の仮設自転車駐車場に、シルバーのベストを着た梶山さんと大森守さん(七二)がいた。百台以上の自転車、バイクも十数台見える。二人は乱雑状態の自転車を一台ずつ整然と並べている。敷地の一角には、撤去された十台余りの放置自転車が一時的に保管されていた。

二人は手早くごみを拾い集め、トングとビニール袋をもって放置自転車防止パトロール

に出かけた。その後ろ姿を見て、梶山さんのつぶやきを思い出した。「地元の人から、ごころうさん」と言われると、この仕事をやって本当に良かったと思う」。

今年一月一日、この向かい側には終日利用可能な「大みか駅前西口自転車駐車場」がオープンした。



倒れている自転車を起こして整列



入口ゲートで説明する梶山さん

需要高まる「児童クラブの見守り支援」

大みか小学校の校舎内にある一教室が大野清美さん(六六)の仕事の場である。ここは大みか児童クラブで、学校から下校して来た子どもたちが集まって来る。

児童クラブとは、放課後や夏休みなどの長期休みにおいて、保護者が就業などにより昼間家庭にいない児童に対し、遊びや生活の場を提供しているところである。児童クラブは、市からの委託を受けて運営は各クラブが行っている。市内ほとんどの小学校に設置されていて、小学校一年生から六年生までの児童が利用することができる。ただ、一クラブ四十人程度という定員が決まっているため、希望すればだれでもというわけにはいかず、大みか児童クラブでは現在三十五人が在籍し、一年生から四年生までの児童が通っている。支援員は八人いるが、シルバー人材センターの会員は大野さん一人。シフト制により、三人ずつ出勤する。

八月末の頃、大野さんの出勤に同行、取材した。

この日も猛暑の名残りの大変暑い中、子どもたちは三時前に下校。大野さんは入口で迎え入れ、コロナ対策のため一人一人の検温をして健康チェックをする。手洗い、うがいを済ませ、荷物をロッカーに片付け、持参の水筒で水分補給をして座り込む子どもたち。「ふー！やれやれ！」という声が聞こえてきそうである。

大野さんたちはおやつ準備に取り掛かる。この日はスナック菓子とクッキー。今はコロナ対策のため、みんなが向かい合わないように同じ方向を向いて座り、楽しいおしゃべりもままならない。

代表の子の「ゴミを拾ってください。ごちそうさまでした」の後は自由遊び。二、三人で一緒に座って折り紙をする女の子、ブロックで遊ぶ男の子、好きなお絵かきを楽しむ子、なごやかに楽しい時である。大野さんは数人の女の子のオセロやトランプの相手をする。全体にも目を向けて子どもたちを見守る。

四時を過ぎると学習タイム。また、おやつの際のように座って宿題などの勉強が始まる。三十人以上の異なる学年の子どもたちが一室にいるのに、話し声もなく静かに勉強する姿に感心させられる。

そのうち、一人一人、保護者のお迎えが来て子どもたちは帰宅する。支援員は、後片付けや部屋、トイレの掃除などをして仕事が終わる。通常は十八時まで。延長があると十九時まで。夏休みなどの長期休み中は、朝八時から開設している。

大野さんの話では、子どもた

ちと一緒に遊んだり話したりするのが楽しい。だが、子ども達は活発に動き回るのでがさせないように見守ることに気を遣うのと。子どもが好きな大野さんにふさわしい職場である。



子ども一人一人の話に耳を傾ける



遊びの時間にゲームの相手をする大野さん

県シ連との共催イベント
**新規会員向け
 セミナーを開催**



講師を務めた女優の羽田美智子さん

県内各地で事業展開するシルバー人材センターの活動内容への理解度をより深めてもらい、入会への手がかりを提供しようという目的で、新規シルバー会員向けセミナーが昨年十一月二十七日、日立市幸町一丁目のホテルテラスザスクエア日立で開催されました。

県シルバー人材センター連合会(綿抜剛会長の主催、日立市シルバー人材センター(今橋徹也理事長)との共催で開催されました。

セミナーは二部構成で、主催者の綿抜会長に続いて共催者の今橋理事長のあい



パワーポイントを用いながら、仕事内容を紹介する会員

さつその後、一部では映像を交えながら会員がさまざまなお仕事に就いている様子、入会手続き、組織内容などの紹介が行われました。

多くの仕事の中から、照山和行会員が「空き家サポート」チームを代表して、空き家問題の新たな管理の在り方として注目を集める空き家サポート業務の内容をパワーポイントを用いながら紹介。続いて和光美佐子会員が、児童が安心して過ごせる場所を提供する「放課後児童クラブ見守り支援」事業のサポート要員として、子供たちとの触れ合いを通じて新たな生きがいを見つけたと報告しました。

二部では「人生一〇〇年時代 これからの人生 あなたはどのような生き方をさ



会場三か所に設けた入会案内ブース

れますか？」の演題で、女優の羽田美智子さんが講師として登壇し、九十分間の講演を行いました。常総市出身の羽田さんは一九八八年にデビュー、映画、テレビなどで活躍。二〇一七年放映されたNHK朝ドラマ「ひよっこ」では主人公の友人母親役で出演。〇三年からはスタートした刑事ドラマ「おかしな刑事」シリーズでは伊東四朗さんとダブル主演を務め、「八十三歳で主役を演じる伊東さんはギネス級の俳優さん、私も目標をもって演じ続けたいと思います」と話し、講演を終えました。

イベントには約七十人が参加。会場では三か所が入会案内ブースが設けられましたが、早速、参加者十一人から入会手続きなど関心が示され、大きな成果を収めました。

編集後記

今年(辛丑)は、どんな年になるのだろうか。今年の干支(えと)は「辛丑(かのと・うし)」。「辛」は、痛みを伴う幕引き、「丑」は、新たな息吹を暗示。今年(辛丑)は、困難を伴うが状況が好転する、年かも。期待がもてそうだ。

世界的に猛威をふるった百年前のスペイン風邪は第三波で終わった。今年(辛丑)は新型コロナウイルスの脅威を最終息させる好機かもしれない。

当センターは四十歳になった。孔子いわく「四十にして惑わず」。我々は総力を結集して、現状の閉塞感を打ち破り、新たな息吹をしっかりと感じる年にしようではないか。

(広報委員 片根)

会員募集中!

「地域に元気、自分もいきいき
 シルバー人材センターで
 一緒に活躍しましょう!!!」

入会案内や申込書は、
 シルバー人材センター、高齢福祉課、
 各支所、交流センターなどにあります。

入会お待ちしております
 おります!



入会希望者説明会日時

令和3年

- ・ 2月18日(木) ・ 5月20日(木)
- ・ 3月18日(木) ・ 6月17日(木)
- ・ 4月15日(木) ・ 7月15日(木)

時間 9時30分から正午まで

会場 福祉プラザ